

「記録に残す評価」年間計画一覧（例）【解説】

★ 5領域には、それぞれ詳しく目標が設定されている。それらの目標の留意点、言語活動例を確認し、単元の指導事項を確認することが大切である。

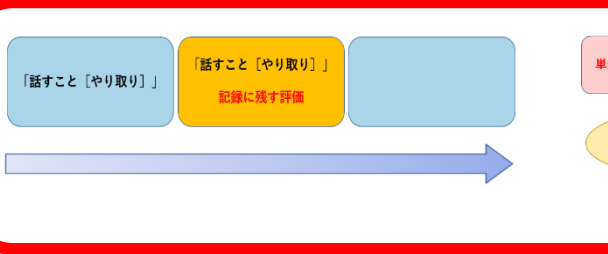
★ 単元のゴールとしての言語活動例を示す。
・必然性があるか
・「本物」であるか
・相手意識があるか
・コミュニケーションの意義や楽しさを感じられるか
という点に留意し、例を参考に児童の実態に合わせて設定することが大切。

「記録に残す評価」年間計画一覧（例）「NEW HORIZON Elementary」(東京書籍)
[5年生]

領域	単元名	聞くこと					読むこと					話すこと〔やり取り〕					書くこと														
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ										
目標		[目標内容]					[目標内容]					[目標内容]					[目標内容]														
留意事項		[留意事項]					[留意事項]					[留意事項]					[留意事項]														
言語活動例		[言語活動例]					[言語活動例]					[言語活動例]					[言語活動例]														
観点別評価回数		知・技(4)思・判・表(2)主体(2)					知・技(5)思・判・表(0)主体(0)					知・技(5)思・判・表(3)主体(3)					知・技(7)思・判・表(6)主体(6)					知・技(3)思・判・表(0)主体(0)					知・技(24)思・判・表(11)主体(11)				

単元のゴールとしての言語活動例

単元	観点	回数	思	判	表	主体
Unit1	知・技	3				1
Unit2	知・技	4				0
Unit3	知・技	2				1
Unit4	知・技	3				2
Unit5	知・技	2				0
Unit6	知・技	2				1
Unit7	知・技	1				2
Unit8	知・技	2				1
CYS1	知・技	1				1
CYS2	知・技	2				1
CYS3	知・技	2				1



★ 目標に対して、常に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点が定まっているわけではない。活動の意図に応じて、評価の観点が決まる。

★ たとえゴールとしての言語活動が、「話すこと [発表]」であっても、記録に残す評価も必ずしも「話すこと [発表]」というわけではない。計画に沿って、ゴールに向かう過程の言語活動において「話すこと [やり取り]」で記録に残す評価を行うこともあり得る。